

# 仙台麦作情報

宮城県仙台農業改良普及センター

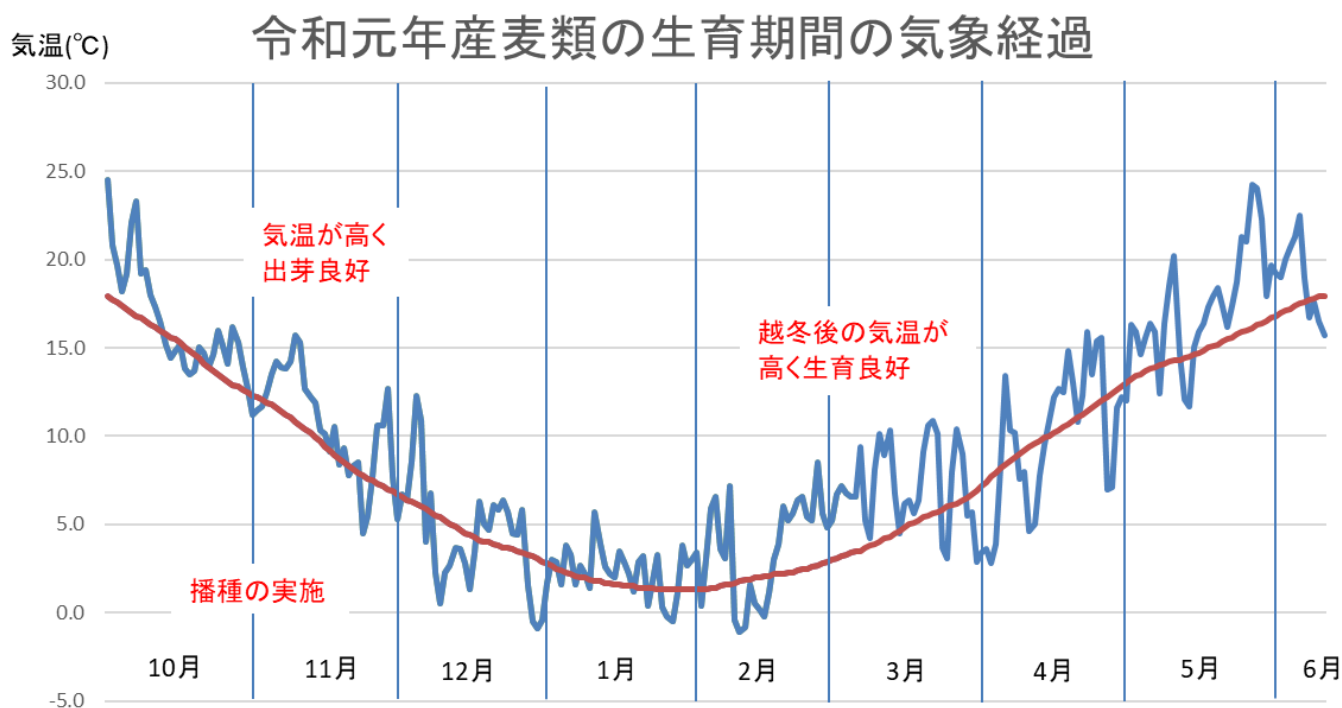
Tel 022-275-8410 Fax 022-275-0296

<http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

**\*適期に麦を播き，多収・高品質を目指しましょう。\***

- ・稲の刈取り適期が早まっています。稲刈りが終わったら麦の播種の準備を始め適期内に播種しましょう。
- ・播種適期は，  
仙台地域で「10月15日～10月20日」，  
黒川地域で「10月5日～10月10日」です。

## ★令和元年産気象経過の振り返り



令和元年産麦類(30年秋播種)の播種期は11月上旬頃と適期からやや遅れましたが、その後年内の気温が高く経過したことから茎数を確保できました。平年の場合、播種期が遅れるほど生育量が確保できずに収量が低くなりますので、「適期に播種しましょう。」

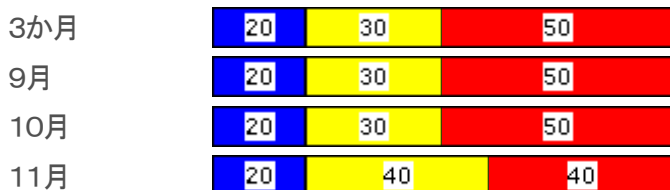
★東北地方3か月の気象予報（令和元年8月23日仙台管区气象台発表）

- ・ 9月  
東北太平洋側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。  
気温は、高い確率50%です。降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
- ・ 10月  
東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
気温は、高い確率50%です。降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
- ・ 11月  
東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

【気温】

[東北地方]



【降水量】

[東北太平洋側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

★令和2年産の栽培管理

①碎土率の向上

出芽率向上や除草剤の効果を最大限に発揮させることにつながります。

- ・ 直径2cm以下の小土塊の作土における比率が70%以上を目標とします。



【写真1】  
中央から左側が碎土率70%以上の状態です。

※粘土質のほ場では、碎土率を高めすぎると播種後の降雨で土がしまりやすくなるので、注意が必要です。

## ②徹底した「排水対策」と適正な施肥量

出芽前後は湿害を受けやすいので、播種前に施工しましょう。

### ○弾丸暗渠

- ・本暗渠に対し、1～3m間隔で直角に設置しましょう。
- ・耕盤の下に設置する必要があります。  
→深さ目安：30～40cm程度

### ○明きよ

- ・「水が排水される」様に設置します。  
→深さ目安：20～30cm程度  
→水口から水尻にかけて傾斜をつけると良いです。
- ・年内に明きよの補修を行いましょ。

### ○うね立て播種

- ・広畝成形播種  
→往復の作業工程で広畝ベッドを成形します。
- ・耕うん同時うね立て播種

### ○基肥施肥

「イネは地力でとり、ムギは肥料でとり」といわれるほど、麦の収量には施肥が大きく影響します。

- ・基肥標準施肥量は10aあたり成分量で  
N (窒素) 8～10kg, P (リン酸) 8～10kg, K (カリウム) 10kgです。

## ③適期播種実施（重要）と播種量・播種深

越冬前の目標生育量(目標収量 500kg/10a とした場合)

茎数：400～500本/m<sup>2</sup>

麦の収量は穂数の多少で決まります。500kg/10aの目標収量達成には一般的な播種量であれば、越冬前に種子1粒あたりで2本の分けつが必要です。

気温の高い播種適期のうちに播種をすることで、分けつを確保しやすく、目標茎数の確保が容易になります。

【写真2】  
溝堀機を用いた  
明きよ設置



【写真3】  
明きよ補修

## ○適期播種

表 管内麦類の播種適期

地域	は種適期	晩限
仙台	10月15日～10月20日頃	10月30日頃まで
黒川	10月5日～10月10日頃	10月20日頃まで

- ・地域ごとの播種適期は表を参照下さい。
- ・10月の降水量が平年よりも多い予報となっております。秋雨により、ほ場の条件に恵まれず播種遅れとならないよう、適期に達し次第いつでも播種ができるよう早めに準備を進めましょう。

## ○播種量と播種深

- ・播種量は250粒/m<sup>2</sup> (=8～10kg/10a) が基本です。
- ※播種が遅れてしまった場合は、播種量を増やすことで出芽本数の確保に努めましょう。
- ・ドリル播きの条間は20～25cm程度とし、播種深は3cm程度で実施しましょう。

## ④2～3回の「適期麦踏み」

耐寒性強化、凍上害防止、生育均一化等の効果があります。

- ・越冬前（3～4葉期）に1回、越冬後（融雪後～茎立期）に1～2回実施します。
- ・年内の麦踏み可能な姿とするため、適期播種が必須です。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」に比べ、倒伏しやすいので、確実に実施しましょう。
- ・ほ場が湿った状態での実施は、根の伸長を阻害するので、必ずほ場が乾いた状態で実施してください。

## ⑤雑草防除

- ・前年発生した雑草の草種（イネ科、広葉雑草）に応じて除草剤を選択しましょう。
- ・播種直後から播種後2～3日以内を目安に土壌散布、生育期では、雑草茎葉散布により除草しましょう。

**【まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全】**

秋の農作業安全確認運動 ～令和元年9月15日から11月30日まで～